

# 電気職公務員の技術士試験合格体験記

平成 29 年 6 月 18 日

(HN) エクレア

<https://ameblo.jp/bleu-eclair/>

## 1. 自己紹介

平成 25 年度から技術士第二次試験に挑戦し、平成 28 年度に 4 回目の挑戦で技術士第二次試験に合格することができました。択一問題で足切りで落とされること 2 回、4 年間で A 評価の出た論文は平成 28 年度の選択科目Ⅲのみと、決してスマートな経歴ではありません。この 4 年間で SUKIYAKI 塾ホームページに公開されている資料や体験記には大変お世話になりましたし、また各種講座の受講がなければ私の合格はなかったと思います。恩返しの意味も込め、合格体験記を書きたいと思います。今後、技術士試験に挑戦される方にとって、少しでも参考になれば幸いです。

### 【私のスペック】

|         |   |
|---------|---|
| ハンドルネーム | エクレア  |
| 生年月日    | 昭和 51 年度生まれ   |
| 受験部門    | 電気電子部門  |
| 選択科目    | 電気設備  |
| 専門とする事項 | 建築電気設備  |
| 職業      | 某地方自治体に勤務する電気職公務員   |
| 所有資格    | 技術士（電気電子部門）(H28 取得)<br>第二種電気主任技術者 (H24 取得)<br>第三種電気主任技術者 (H17 取得)<br>エネルギー管理士 (H20 取得)<br>第二種電気工事士 (H20 取得)<br>職業訓練指導員免許（電気科）(H22 取得)<br>建築物環境衛生管理技術者 (H25 取得)<br>第二種冷凍機械責任者 (H22 取得)<br>二級ボイラー技士 (H20 取得)<br>消防設備士（甲 1, 甲 4, 乙 6, 乙 7）(H17~H23 取得)<br>危険物取扱者（乙 4）(H17 取得)<br>基本情報技術者 (H18 取得)<br>技術士第一次試験（電気電子部門）合格 (H24 合格)<br>第一種電気工事士試験合格 (H20 合格)<br>一級ボイラー技士試験合格 (H22 合格) |

## 2. 成績

### 【筆記試験（H25～H28 受験）】

| 年度       | 必須科目  | 選択科目 |     |          |
|----------|-------|------|-----|----------|
|          | I     | II   | III | II + III |
| 平成 25 年度 | 30/30 | B    | B   | B        |
| 平成 26 年度 | 16/30 | B    | C   | B        |
| 平成 27 年度 | 16/30 | *    | *   | *        |
| 平成 28 年度 | 28/30 | B    | A   | A        |

### 【口頭試験（H28 受験）】

| 試問事項 | ①<br>経歴及び<br>応用能力 | ②<br>技術者倫理 | ③<br>技術士制度の<br>認識その他 |
|------|-------------------|------------|----------------------|
| 成績   | ○                 | ○          | ○                    |
| 結果   | 合格                |            |                      |

## 3. 使用した参考書

- (1) 技術士（第一次・第二次）試験「電気電子部門」受験必修テキスト（福田遵、日刊工業新聞社）
- (2) 独学・過去問で効率的に突破する！「技術士試験」勉強法（鳥居直也、同文館出版）
- (3) 例題練習で身につく技術士第二次試験論文の書き方（福田遵、日刊工業新聞社）
- (4) 技術士第二次試験 電気電子部門対策 解答例&練習問題（福田遵、日刊工業新聞社）
- (5) 技術士第二次試験 電気電子部門 択一式問題 150 選（福田遵、日刊工業新聞社）
- (6) 総合技術誌 OHM（オーム社）
- (7) 電気計算（電気書院）
- (8) 過去問（日本技術士会 HP よりダウンロード）
- (9) 技術士第二次試験口頭試験対策セミナーテキスト 2016（SUKIYAKI 塾）
- (10) SUKIYAKI 塾口頭試験対策セミナー録画（SUKIYAKI 塾）

## 4. 筆記試験合格体験記

### 【平成 25 年度】

平成 24 年度に技術士第一次試験に合格し、その勢いで翌年の平成 25 年度に受験しました。日本技術士会開催の一次試験合格祝賀会で技術士の方からいろいろな話を聞いたのもあって、気持ち的には絶対に合格するぞという強い気持ちを持っていました。

まずは論文の書き方からということで(3)を読みました。そして具体的な論文の書き方を(4)で確認し、その後は過去問を調べてポイントを学んでいきました。択一式問題は(5)のみでしか対策は

しませんでした。あとは(6)や(7)の雑誌をできるだけ読み知識を増やしていきました。

自分としてはかなり勉強したつもりで、試験終了後も一応の手応えはありましたが、結果は不合格。このあとこの年度の論文を添削してもらってわかったのですが、技術の引き出しが少なすぎるのが敗因だったと思います。

#### 【平成 26 年度】

基本的には前年度と同じ勉強内容です。

論文の書き方を学ぶために他の本も読んでみようと思い、(2)を読みました。この本は APEC さん主催の SUKIYAKI 塾での内容そのもので、合格するには何が必要ががよく分かる内容でした。そして、合格するにはとにかく知識が必要だと思い、(6)や(7)の雑誌をさらに読み込みました。

また、この年は SUKIYAKI 塾主催の出願対策講座も受けました。今だからこそ言えるのですが、この試験では他の方に文書を読んでもらって添削を受けるというのが重要な要素になります。何をアピールして書いていくのかがわかり、非常に参考になりました。

この年度はまさかの択一式問題での足切りでした。前年度満点で、簡単と思って論文に重きを置いていたのですが、電気設備以外の分野で得点が伸び悩んでしまいました。択一で落ちたのはショックでしたが、さらにショックだったのは課題解決の問題が C 評価だったこと。論文の書き方について、根本からやり直さなければならぬと思ったのでした。

#### 【平成 27 年度】

前年度の C 評価からの挽回のため、この年は SUKIYAKI 塾の筆記試験対策講座を受けました。SUKIYAKI 塾のやり方というと、何といても骨子法です。ボトルネックをはっきりさせて、なぜこのような解決策があるのか？なぜこの解決策を選んだのか？という形で進めていきます。非常にシンプルでわかりやすい方法で、私にはやりやすい方法でした。

さらに、この年は自分でキーワード集を作りました。電気設備に関係のあるキーワードを(1)などから調べ上げ、200 以上のキーワードについて 150 字程度にまとめました。これは論文を書くいい練習になりました。そしてこのキーワードを上手く論文に入れることを考えて論文を書き進めました。

この年度も択一式で落とされてしまいました。やはり電気設備分野以外の問題で苦戦してしまいました。この年度から足切りに遭うと論文が採点されず、それなりに自信があった論文も評価されないままになるという悔しい結果に終わりました。

#### 【平成 28 年度】

この年度は異動で結構忙しい部署に行ったというのがあり、なかなか十分な勉強ができませんでした。勉強法としては前年度と同じやり方で、キーワード集をもう一度まとめて、何度も読み返していました。

この年度を振り返ると大きかったのは、業務の知識がそのまま論文での表現に役立ったということ。これまでの技術者としての見方だけでなく、一般の方からの見方という要素が身に付いたと思います。この年度の課題解決能力問題では、『太陽光発電を普及させるための課題を 4 つ書け』と

いうのがあり、私は(1)太陽光発電の電力の品質、(2)系統連係保護、(3)FIT 価格の下落、(4)建築基準法の大規模開発に当たるという 4 点を書きましたが、このうち(3)(4)についてはこれまでの頭では出てこなかった内容と思います。

この年度は択一式問題も切り抜け、ついに筆記試験に合格。専門科目の論文は B 評価だったのでギリギリだったと思いますが、対策を講じていた課題解決問題で A 評価を取れたのが大きかったです。一次試験祝賀会で『忙しい人ほど技術士試験に合格する』と聞いたことがありましたが、本当にそうかもしれないと思ったのでした。

## **5. 筆記試験合格のポイント**

技術士試験が他の資格試験と決定的に違うのは、正答が一つではないというところです。また、1つの問題の中で広範囲な知識が求められ、さらにその知識の展開力が求められます。以下の3つを特に意識するべきかと思います。

### **(a) 広く深い知識を身に付ける。**

技術士の試験問題というのは意外とシンプルです。電気電子部門の電気設備では、再生可能エネルギー、省エネ、建物の耐震化、BCP など、よく扱われるテーマが多いです。これらについて、さまざまな角度から、またより深い知識を持って論文を書く必要があります。対策としては、専門書で知識を増やすのはもちろん、雑誌や新聞から最新の動向を気にしておく必要があります。

### **(b) 広い視野を持つ。**

(a)と似ていますが、専門知識ではない部分の内容にも注意を配る必要があるかと思います。技術者としての視点だけでなく、利用者の視点というのを考えてみるべきでしょう。

### **(c) 課題解決能力問題では『なぜこの手段を選択したのか?』という明確な理由を持つ。**

これについては、(2)の本に詳しく書いてあります。現状→ボトルネックの抽出→改善方法の検討→改善方法による効果と課題という流れで考えていきます。『なぜそうなるのか?』というのを考えるのが技術者として必須の事項でしょう。

## **6. 筆記試験の感想**

この試験が他の資格試験と大きく異なるのは、『試験官の評価』が試験の結果に関係するということだと思います。よい回答というのは内容的に合致していることは当然ですが、その視点、改善策の精度、さらには論文自体の体裁などすべてが評価の対象に含まれるということです。独学で合格する方もいるとは思いますが、やはり何らかの形で添削を受けたり、他の方に論文を読んでもらうべきかと思います。有料の講座もありますが、SUKIYAKI 塾のように無料の講座もありますので、積極的に活用するべきかと思います。

努力した分がなかなか表面化されない試験だと思いますが、周りの方の意見を多く取り入れ、合

格論文作成の技術を身につけていく勉強をするべきかと思います。合格論文作成のために必要なことを十分意識して勉強すれば合格が見えてくるはずです。

## 7. 口答試験合格体験記

平成 28 年度に 4 回目の受験で初めて筆記試験に合格することができました。ようやく乗り越えた大きな壁。何が何でも 1 回で口頭試験に合格するべく、準備を始めました。

口頭試験の日程は合格通知書に記載されているのですが、私の受験日は 12 月 23 日（金・祝）。受験者の中では比較的遅く、準備期間は十分に取れた方だと思います。

まず読んだのは(2)。これは筆記試験と口答試験まとめて書いてある本ですが、SUKIYAKI 塾の目指す方向が明確に書かれていて、何の対策をすればいいのかがよく分かりました。

そして、大きかったのは(9)と(10)。これは SUKIYAKI 塾の口答試験模擬面接を申し込んだ際にいただいたものですが、今回の口答試験対策はほとんどこれだけだったといってもいいでしょう。普段の通勤電車の中でひたすら(9)を読み、歩いているときは IC レコーダーで(10)の録音を聴く、これで合格点に到達できたと思います。口頭試験に合格するための知識はこれらのテキストに全て詰まっています。(9)に掲載されている想定質問に対する回答を全て用意し、本番の試験に臨みました。

そして、今回の合格に必要な不可欠だったのは SUKIYAKI 塾の口頭試験模擬面接。事前に模擬面接を受けて、悪い部分を全て指摘してもらいました。私の場合は、業務経歴票がピンチとはっきり言われたのですが、指摘されたことにより対策をじっくり考え、リカバリーすることができたと考えています。筆記試験でも周りの方の意見に耳を傾けるべきと書きましたが、口頭試験においてはさらにその傾向が強まるでしょう。

## 8. 口頭試験合格のポイント

口頭試験は経歴（60 点）、倫理（20 点）、技術士制度（20 点）の 3 つの分野での評価になりますが、倫理と技術士制度は勉強次第で十分対策できますので、実質的には経歴の部分で合否が決まるといっても過言ではないでしょう。

経歴の部分では事前に提出した業務経歴票が大きなウェイトを占めます。ここで部門や専門科目が受験科目と違うと指摘されるとリカバリーは非常に厳しくなります。半年以上前に出した業務経歴票によって、せっかくの筆記試験合格が台無しになってしまう可能性があるため、くれぐれもご注意ください。

そして、やはり重要なのは模擬面接です。SUKIYAKI 塾の模擬面接、先輩技術士の模擬面接が受けられれば受けるべきですし、このような専門の方の模擬面接が無理でも家族などをお願いして面接の練習をするべきかと思います。イメージトレーニングだけでなく、実際に声に出すことが何よりの訓練になるでしょう。私は模擬面接だけでなく、家で自分の回答を録音し、それを何度も繰り返し聞きました。

口頭試験は筆記試験と違って『合格させようとする試験』です。口頭試験本番は間違いなく緊張

しますが、試験官も同じようにこの口頭試験を乗り越えてきた技術士です。誰よりも受験者の気持ちを理解して、苦勞を乗り越えてきた受験生を合格させたいという気持ちを持っているものと思います。十分な訓練を積んで臨めば試験官が助けてくれるはずです。自信を持って試験に臨んでください。

## **9. 参考情報**

### **【東京への移動について】**

首都圏在住の方にはあまり関係ないかもしれませんが、地方在住の方にとっては東京への移動は余裕を持って行動するべきでしょう。当たり前ですが、口頭試験の時刻に間に合わないということがあってはなりません。今までの努力を無駄にしないためにも、時間的に余裕を持った行動をとるべきでしょう。私の場合は、試験時間が午前中だったので、前日に移動せざるを得なかったのですが、APECさんは『口頭試験は必ず前泊して臨む』とおっしゃっています。試験時間が午後の方でも、前泊する方がいいでしょう。

### **【宿泊場所について】**

東京近辺ならどこに泊まってもそんなに変わらないかもしれませんが、試験会場のフォーラムエイトの近くに泊まるようにしました。フォーラムエイトはご存じのように渋谷にあり、周りにはホテルはありますが、ビジネスホテルは少なめです。

ちなみに私が宿泊したのは大橋会館というビジネスホテルです。最寄駅は東急田園都市線の池尻大橋駅で、渋谷駅までは1駅です。ホテルからフォーラムエイトまでそんなに遠くないので、私は歩いて行きました。徒歩20分強で着きます。ホテル自体は部屋は小さいですが、値段は安めで(7,200円でした)、宿泊するだけなら十分な内容です。

年末の東京は混むので、早めの予約をおすすめします。

### **【フォーラムエイトの待合室について】**

試験会場のフォーラムエイトに着くと、試験までの時間は待合室で過ごすことになります。よく、待合室のピリピリした雰囲気は苦手という意見を聞きますが、私が行ったときはみなさんリラックスした雰囲気で本を読んでいた。受付後はいったん建物外に出ることも可能なので、外のカフェなどで時間を過ごす方もいるようです。

会社でたくさん受験しているところだと、受験者同士が知り合いということもあるようで、声を掛け合っているところを見ました。私にはあり得ないシチュエーションだったので、うらやましく思いましたね。

### **【口頭試験の時間について】**

口頭試験の時間は20分と設定されていますが、場合によっては延長できることになっています。一般的に時間を延長するときというのは、20分では合格が厳しく、試験官が合格させようとするために延長すると聞いたことがあります。早く終わる人は問題がなく、合格の可能性が高いとも言

われています。

ただこれは一般論で、必ずしもそうではないと思いますのでご安心ください。私は 20 分を超えましたが、質問は定型的な質問ばかりで、特に延長したという認識はありませんでした。部門によって考え方が違うのですが、全体の時間よりはどんなことを答えたかが評価の対象になるわけで、試験時間をそれほど気にすることはないと思います。

## **10. 最後に**

この試験でもっとも重要なのは、筆記試験にしても口頭試験にしても他の方の指導を受けるまたは意見を聞くということだと考えています。そういう点で、SUKIYAKI 塾の方には大変お世話になりました。SUKIYAKI 塾なしでの合格は考えられなかったと思います。

技術士試験は難関であるのは間違いありませんが、努力すれば必ず報われる試験だと思います。今後受験される方は、最後まであきらめず頑張ってください！

★ブログに技術士試験などの情報を書いています。ご意見等はこちらまでお願いします！

最強の電気技術者への道 <https://ameblo.jp/bleu-eclair/>